

特定非営利活動法人

明るいシステム倶楽部 会報9月号

令和3年9月1日

(2021年)

今年の夏は、二度目の梅雨が襲来したような様相でしたが、東京五輪も無事終了しました。コロナ禍の中、世界のアスリート達へのビッグプレゼントとなり、開催そのものを含め、大変意義のあるスポーツ大会だったと思います。私達も大いに楽しませて頂きました。

さて、去る8月17日には、政府によりコロナ禍における緊急事態宣言の対象範囲拡大と期限延長（9月12日まで）がなされ、以下の感染対策の三本柱が公表されました。

- ① 医療体制構築 ② 感染防止徹底 ③ ワクチン接種

確かに、感染防止よりも医療体制を重視した点は一步前進と思います。ただ、相変わらず「ゼロコロナ」指向で人流抑制を進めるようで、むしろ「これ以上経済を疲弊させない。」と国民に強く訴えてほしいものです。コロナで死なず経済で死に至るのは、本末転倒です。

また、政府及び各自治体には「感染抑制はできても感染防止は不可能であり、感染しても重症化させない。命を守る。」というメッセージを具体策と共に打ち出す必要があります。

この一年半、政府及びマスコミ等は、国民にコロナの恐怖を与えるばかりに終始しました。これからは、国民がもっと安心する言葉や取り組み姿勢がとても重要です。

その前提として、改めて情報の公開を徹底し、国民ともしっかり情報共有しつつ、全体を俯瞰して最善策を見出す姿勢及び体制がとても大切だと思いました。

最後に、パラリンピックも開幕した中で、子供達にとって「学校連携観戦プログラム」は滅多にない観戦機会であり、選手達と子供達が共に感動できる大会へ盛り上げたいですね。

< 9月の送付物 >

- ・日本一明るい経済新聞 9月号 ・ビープラッツプレス 最新号
- ・年会費納入のお願い（該当者のみ） ・領収証の交付（該当者のみ）

< お知らせ > 第55回 明るいセミナーの開催について（ご案内）

- ・日 時；令和3年9月30日（木）18時30分～21時
- ・場 所；大阪産業創造館4階 イベントホール
- ・内 容；過去のAKS認証企業3社トップのご登場（フォーラム形式）



< 9月の活動予定 >

- | | | | |
|---------|-----------------------|----------------------|-------------|
| 9/11(土) | 「気楽な ZOOM サロン」⑩ | 当倶楽部会員専用の交流の場です。 | 20:00～21:30 |
| 9/15(水) | 臨時役員会議⑮ | 「次回 AKS 認証候補企業の検討ほか」 | 13:30～15:30 |
| 9/08(水) | AKS 市民大学 (ZOOM) 菊池教室⑧ | 「感性を育む和学講座」 | 20:00～21:30 |
| 9/17(金) | 仏教雑学講座 | 中止 | |
| 9/25(土) | AKS 市民大学 (ZOOM) 宮崎教室 | 「もやもや解決法」 | 20:00～21:30 |
| 9/30(木) | 第55回 明るいセミナー | 中止 | |

—— メモの魔力・・・たかがメモですが ——

高村 和義

以前から一度触れてみたいと思ったことがあります。身近な「メモ」のことです。誰にでも日常のことを備忘録のように、或いは日記のように書き残す習慣は大なり小なりあるかとは思いますが、私もかなり以前からメモの習慣はありました。ただ、ある関連する本2冊を読んでから、改めて触発されたように思います。

一つは、①メンタルトレーナーの久瑠あさ美氏の「未来を動かす手帳術」、もう一つは、②SHOWROOM (株) 社長の前田裕二氏の「メモの魔力」という本です。

当初、私はメモを書く効用として、事前にスケジュールを立て、これをもとに種々準備し、目標日程までに一つ一つを順次こなし、結果を残すことと考えていました。これはこれで、自分の生活ペースがスムーズになり、目に見える結果に繋がるが増えていきます。

しかし、よく考えてみれば、メモを「時間管理ツール」として習慣化したに過ぎず、当然のことながら、それ以上でもそれ以下でもなかったのかもしれない。

さて、①の本ですが、宣伝文句の巧さでしょうか、キャッチフレーズには「手帳に“書く”だけで潜在能力が引き出される！」とあり、これは何だと思いました。

人の人生への向き合い方は十人十色で、本人の思いや取り組み姿勢が大きく影響するのかもしれない。久瑠氏は、メモで視覚化することにより、自身の潜在意識に直接働きかけられると説いたのでしょう。確かに、書く行為の中で初めて気づくことは多々あります。

(1) まず、自分の思う未来の姿を描き、言葉で表わす。

(2) 更に、現在に戻して、これからの具体的方法を組み立て、言葉で表現する。

確かに、到達点及びその過程を可視化する大切さは、改めて少しはわかった気がします。

次に、②の本の話に移りますが、著者本人は恐ろしい程のメモ魔で、メモの話だけで一冊のベストセラーを生み出しています。著者の思いの一端を申し上げれば、物事を事実としての確に捉え、それを一般化（抽象化）し、更に他分野へ応用（転用）できるアイデアを生み出す一連の優れたツールと考えておられます。メモは単なる道具でなく、生き方そのものまで語ってもあります。深掘りすると、こういう考え方もあるのかと感心しました。

本を読み進めていく中で、もう一つ気が付いた点があります。考えてみれば、捉えるべき対象は外部だけではなく、自分自身という内面にも向けられています。

今まであまり考えてこなかったかなと少々ドキッとしています。

何れにせよ、たかがメモかもしれませんが、日頃のメモを極めることが少なからぬパワーになるようにも改めて感じています。

おかげで、用途に分けた手帳やメモ帳が増えてきて、予定表用、記録用、思いつきメモ用、YouTube 用など、今や同時並行で使う有様です。（これは著者の考えとは別ですが）

このような方法は、面倒で本当に役に立つのかと感じられるかもしれません。

私のメモは、前途多難、「^{さざなみ}漣」ならぬ「波高し」でしょうか。

